

「めいりん教室」

～社会人が講師となって、子どもたちに地域の魅力や働くことの喜びなどを伝えるふるさと講話～

4月26日（金） 高鍋東中学校

1年生から3年生までの全校生徒およそ300人が各学年ごとに分かれ、3人の「めいりん先生」から、高鍋町の魅力や歴史、戦争体験談などを学びました。



【3年生】（高鍋町の活性化について）
高鍋町長の黒木敏之さん

【2年生】（蚊口浦の空襲について）
戦争体験者の前村二三さん



【1年生】（秋月種茂と明倫堂について）
明倫堂文庫を学ぶ会の石川正樹さん

このうち黒木町長は、『高鍋町は宮崎県内で最も面積の小さい町だが、コンパクトで住みよい町として、県内で住んでみたい町（不動産業者調べ）で、宮崎市、都城市に次いで3番目にランクされている』ことなどを紹介しました。

半面、現在2万人余りいる高鍋町の人口が、20年後には5000人ほど減って1万5000人になる可能性があり、人口減少に歯止めをかけることが町政の最も大きな課題であることを強調しました。そして、『これからの高鍋を支えてくれるあなた達のような若い人が、ビジョン（未来像）、パッション（情熱）、デシジョン（決断）、アクション（行動）の志を胸に、歴史と文化の城下町に新しい息吹を吹き込んでください』と結びました。



～中学生の感想文より～

●「私も 10 年 20 年後には、高鍋町の活性化に協力していこうと思いました。
高鍋町に住んでいる一員として、もっともっと高鍋のことを知り、高鍋を好きになり、
高鍋を広めていけたらと思います。」

○「高鍋で生まれ育ってきましたが、意外に知らないことが多く、改めて高鍋のすごさや
魅力を感じさせられました。

今から何十年後には、高鍋から 5000 人もの人口が減ってしまうということを聞き、
私たちの若い命は本当に大切だということを実感しました。」

●「僕はエンジニアになりたいと思っています。高鍋に工業系の職場はありますか？
県外で働くのもいいですが、やっぱり一番は高鍋です。」

○「高鍋町は、県内で一番小さい町だけど、歴史などはとても大きい町だと思いました。
大人になったら県外に行って就職しようかと思いましたが、今回の話を聞いて、
高鍋や宮崎で頑張っていこうかなと思い始めました。」

●「これからの高鍋、宮崎、日本を背負っていくのは私たちの世代です。
まずは、目の前にあることから少しずつ、勉強や部活にもしっかりと励んでいきたいと
思います。今日は本当にありがとうございました。」